

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 1 回近江八幡市家庭教育推進協議会		
開催日時	令和 4 年 9 月 2 日（金） 14：30～16：30		
開催場所	市役所 第 3・4 委員会室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	◎岡田委員 ○永峰委員 衛藤委員 五嶋委員 山本委員 堀委員 中江委員 有森委員 西本委員 吉永委員 西内委員 富岡委員 <事務局> 井上参事 木村指導主事 温井指導主事		
次回開催予定 日	令和 5 年 1 月中旬		
問い合わせ先	所属名：近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 担当者名：温井 奈美子 電話番号：0748-36-5533 E-mail：045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ 要約	要約し た理由	発言内容が整理され、記録として残すの に適しているため
事務局 課長 事務局 委員 事務局 委員	1 開会 2 生涯学習課参事あいさつ 3 委員の委嘱 4 会長・副会長の選出 ・会長：岡田委員、副会長：永峰委員 5 会長挨拶 6 説明 ・近江八幡市家庭教育支援基盤構築事業について ・近江八幡市家庭教育推進協議会について ・今日のめあて 7 情報提供と意見交流 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">テーマ①「家庭教育支援員の活動を支援するために」</div> <武佐小学校での家庭教育支援員の活動について報告> ・平成 23、24 年から武佐小学校の家庭教育支援員を始めた。地元の小		

	<p>学校を何とかしたい、役に立ちたいという思いから始めた。本当に困っている親さんは、SOSを出していただけない現状がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校で情報提供されたことは、知らないことにして保護者にかかわるようにしている。教師が建前で話をしている以上、親さんや子どもには浸透しない。本音で話さないと、不信感が募っていく。地元で生まれ、育ってきたということを生かし、本音で親、子と関わるようにしている。 ・地域の方と学校との間のワンクッション・パイプ役で動くこともあるが、教員がすぐに話を聴き、動くことが大切だと考えている。地域の方は、教員と直接関わり、話し、思いを伝えることを求めていると思う。 ・どこの学校もやんちゃをする子には教員が手をかけるが、不登校の子に関わりづらさを感じている教員が多いように思う。私は、家庭教育支援員として、子どもではなく「親」とつながっていきたいと思っている。 ・2年前から家庭教育支援チームを立ち上げた。学童の指導員、主任児童委員、家庭教育支援員で密に情報交換ができています。チームの中で、支援員としては、不登校の子に関わり、学校に行けなくても地域に出ていけるように働きかけたいと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・チームが立ち上がり、それを支援員がリードしてくれている。小さいころからの様子も家庭教育支援員さんが知っておられ、それも学校としてはありがたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・質問…武佐小のチーム構成は素晴らしい。どんな時に、どう動いておられるのかを具体的に教えてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回支援チーム会議を開催している。学童での問題や学校で悩んでいる子どもの情報共有をし、家庭教育支援員が働きかけていくこと、学童でできることを役割分担する。母だけでなく、祖父母や親戚にも働きかけたり訪問したりして、学校・学童に情報提供ができるようにしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担は大切。急にことが起こってから動くのはいけない。日ごろから、情報共有し、気にかけていくことが大切。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間、PTAをしてきている。学校運営協議会やCSがあり、私はPTA

	<p>会長なので把握をしている。たくさんのボランティアさんが木の剪定から校外学習の引率までをしてくださっているが、保護者には伝わっていない。「誰かがやってくれている」という意識の保護者が多い。「誰が誰のために動いている」「誰が、地域にどうかかわっている」「こんなときは、相談にいける」といった情報をもっと学校や教育委員会で発信すべき。問題をどう解決してきたかをケースバイケースで共有し、見ていけるようにすべき。紙媒体にも QR コードを載せるなど、もっと自分が参加している意識を高めてほしい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 歳児の懇談会では反抗期の入り口で言うことを聴いてくれないという悩みが出てきた。今後、さらに難しくなっていくが、保護者は嫌われたくない思いがあったり、YouTube を見せて気をそらしたりするという実情がある。今の保護者は、人と人とのつながりが上手にできない方が多いと感じている。保護者と昭和世代とのギャップがあるが、それでも伝えるべきことは伝えていく必要も感じている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の時期から連携をとっていく必要がある。Z 世代の良い部分と、人間の心を大切にするという古い部分、両方大切にしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援で蜜柑の木さんにもかかわっていただいている。また、課では学童保育、虐待対応の子ども家庭相談室の仕事をしている。ネグレクトや暴力に早く気づき、子どもに被害がある場合はいち早く知らせていただきたい。地域の教育機関からの通報が一番迅速に動けるので、お願いしたい。
会長から 委員へ 質問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質問：民間から通報があった場合は、どう把握されているのか？ →情報がないと、動けない。新規の場合は、情報が入ったら動く。 ・ 即座に対応されているのか？ →ケースにもよる。内容によっては、県の児相になる場合も。 ・ 連携をとっているのか？（学校の担任等） →学校からうちに連絡が入ることが多い。 ・ 家庭訪問をされているのか？ →まずは、学校で動いていただいている。 ・ 連携して、情報の流れは、どこがまとめているのか？ →聞き取りしてすぐ解決は難しいので、ケース会議を持つか職員が対応するという動き。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんが連携されて動いておられるのは、どこの施設においても大

<p>会長から 委員へ 質問</p>	<p>事。コロナ禍でますます保護者との関わりが難しくなっている。行事も縮小され、子どもの育ちの保障が難しい状況もある。しかし With コロナの考え方で、保護者にも子どもの育ちをしっかりとみてほしいということを発信している。幼児課も各施設と連携をとるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をしても返さない保護者が増えているが、園・所ではめげずに関わるようにされている。 ・クレーム対応は、どうしているのか？ →いったんは訴えを聴き、ケースによっては園に確認して返答をすることもある。 ・幼児課が間に入ること、直接言えば思いが届くことが届かないケースもあるのではないか。 →直接連絡するよう提案することもあるが、園との関係や SNS 社会の影響で個人を特定されたくない思いを持っている保護者も多い。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待等のケースについては、日々子どもと関わる中で発見する確率が高いので、見つけた場合は、すぐに連絡するようにしている。小さい子たちなので、虐待されたことを正直に言う子もいる。直接、保護者に体罰はだめということを話すこともある。関係機関との連携では、体制が整ってきている。保護者は指導をすると怒る場合もあるが、園長として指導役をして、「だめなことはだめ」と保護者に言うようにしている。 ・幼児課と連携して、クレームについては直接園に言ってもらえるような関係づくりをしていけるように努めている。「先生と相談してよかった」と保護者が思えるようにしておかないと、小・中学校でも困る。先生への信頼につながるので、就学前での保護者との関係づくりは特に大切。
<p>会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・結果が出るまでには時間がかかることもあるが、長年積み上げてきた成果も出ていると思う。 ・保護者との関係づくりは、担任のみならず園長の役割も大きいと感じる。
<p>委員</p>	<div data-bbox="438 1637 1294 1675" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>テーマ②「不登校等の困り感を抱える保護者を支援するために」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所は、教育相談の施設を設けている。 ・相談室 1・2 は、幼小中の子どもと保護者を対象に相談業務を行っている。 ・相談 1 に来て、学校ではなく別の場所なら通えるという場合であれば、適応指導教室「よしぶえ」。 ・家から出にくい場合であれば、訪問型の「ホームスタディ」。 ・不登校等で悩んでいる保護者や子どもがいるのにも関わらず、どこにも繋がっていないケースが多く見られる。今年度、学校、市教委、マナビィが連携しながら、子どもの実態に応じて活用し、マネジメントする相

	<p>談業務統括員を配置していただいた。小中学校を卒業してから、どう繋いでいくか。キーワードは「繋ぐ」。他の機関と連携しながらやっていきたい。</p>
会長から委員 に質問	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室は何名いますか？ →7名 ・7名はずっと同じ子か？ →3月で一度終了し、新たに申請を出したら入室 ・担任とは連携をとっているのか？ →している ・出席扱いか？ →出席扱い ・学習は？ →ケースによる ・午前中？ →9:00～14:30まで開室しているが、個々の実態による。 ・担任との関係は？よしぶえまかせなのか？ →担任とも連携している。担任の先生も家庭訪問等していただいている。できるだけ多くの人とかかわれるようにしている。 ・よしぶえから復帰できるケースはあるか？ →復帰は少ないがある。あすくるにつなぐケースもある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「行き渋り」「不登校」はアンテナを高くし、欠席が3日続いている子については、必ず管理職に報告するように組織的に動いている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識の持ち方が大切。子どもが心を開く対応を教員にはしてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「つなぐ つながる」を大切にしたい取組をしている。 ・今年度はレジリエンスを大切にしている。 ・学校だけではできないこともたくさんある。適応指導教室やSSWとつながって対応する必要がある。多種多様な子ども、家庭がある。 ・あすくるにも行けない子、送れない家庭もある。兄弟姉妹の影響もあるが、学校を卒業している兄・姉にどうかかわるかも課題。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校などにどう取り組むか、学校の姿勢が問われる。 ・手を差し伸べたいのにできないという家庭を、どのように救うか、道を考えたい。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・普段は、私は学童にいる。学校に行っている子、行けない子、しんどい子、どの子にもかかわっている。 ・自分の息子が学校に行けなかったが、学校がなくてもなんとかするという気持ちもある。 ・「どこに相談していいかわからない」「誰に相談していいかわからな

	<p>い」「言われることはわかるが、どうしていいかわからない」という相談が多く、蜜柑の木を立ち上げた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの居場所と親の会、フリースクール等連絡協議会も立ち上げた。 ・みんな、たくさん情報を求めている。 ・学校を訪問し、校長とも話している。学校を経由して相談に来られる家庭も増えてきた。 ・学校との関係が良いと、回復が早い。回復は学校に行くことではない。 ・学校とのやりとりに疲れる保護者が多い。「言われていることはわかるが、できない」「自分はだめだ」という保護者も多い。 ・自分で命を絶とうとする子も少なくない。子どもを一人にできないから仕事を辞めるというケースも多い。 ・とにかく、情報が欲しい。「この先、どうなるのか」という思いに応える必要がある。あらゆるところに連絡し、相談にのってはもらえるが、どうすればいいかと途方に暮れている保護者もいる。 ・不登校のサポートブックをつくる動きが県である。東近江、近江八幡、日野町エリアも作っているので、10月頃完成する予定。当事者の親も関わって作っているので、かゆいところに手が届くと思う。 ・親にとって、学校と話すのは恐怖でしかない。一緒に付いて来てほしいという親もいる。家庭教育支援員さんは、学校と親を取りもってほしい。学校との関係性が悪くなればなるほど、回復が難しいと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・切実な思いが聞け、しみじみ受け止める。言葉にできない気持ちになる。行動に表せない親の存在、不安が命にもかかわることがわかった。 ・教職という立場に立つと、上から目線になりがち。命令調になりがち。「相談したくない」という気持ちになる保護者も多い。弱い立場にいる保護者、親の立場に立って話をすべき。 <p>教師としてではなく、一人の人間として話を聴いていく。「学校に行ってほしいが行ってくれない」という親の葛藤に寄り添えるやさしさを。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援員がどなたで構成されているかを教えてほしい。 ・安土は、教職のキャリアのある方5名がまち協の役員として来ていただいている。キャリアを生かした活躍をしていただきたい。個別の案件には関われないが、広くかかわっていく。 ・「協働と連携のまちづくり」に、市の職員も参加すべき。地域経営に参加することも必要。 ・自分の長男が、3回も転校した（中学3年生の秋）。登校初日がたまたま、運動会の日だった。服装も合わず、種目にも出られず、同じクラスの子と話すこともできず、その一日で不登校になった。玄関

<p>会長</p>	<p>に行っても靴を履くのに1時間かかる。親が「なぜ行かないんだ」と思っている間は学校に行けなかったが、「行かなくていい」と言うに行くようになった。別室登校で1、2月は登校した。高校は、誰も知らないところであれば行くということで、皆出席した。やはり、学校の配慮があれば違ったと思う。状況を配慮して、「特別」にならないようにすることも大切。</p>
<p>副会長</p>	<p>・やはり現場の先生は、大きな重責を感じる必要がある。心と心で向き合うこと、子どもの純真な心を大切にしなければならない。課題を放置すれば、数えられる20万人の不登校がもっと増加する恐れもある。</p> <p>《閉会の挨拶》</p> <p>・この協議会を有意義な会にしたい。</p> <p>・貧困やひとり親家庭など、いろいろな背景を抱えた家庭が不登校に陥っている。地域や民間団体とも連携していきたい。</p>
	<p>8 閉会</p>

担当課⇒総務課